

## 編集後記

昭和54年度から実施してきた大学入学者選抜共通第1次学力試験も、既に8回を終了しました。

国立大学協会では、入試改善特別委員会において大学入学者選抜方法の改善について積極的に検討が進められており、具体的改善策として、昭和62年度の共通第1次学力試験から出題教科・科目の削減が図られるとともに、国立大学の受験機会の複数化が実施されることになりました。また、臨時教育審議会から答申された大学入学者選抜制度の改革案については、現在、文部省に設置された大学入試改革協議会において検討が進められています。

本号では、大学入試の在り方について、麻生誠大阪大学人間科学部教授、楠川絢一前東京都立大学長、戸田修三中央大学教授、中蘭崇青山高等学校長及び楠山三香男元サンケイ新聞論説委員の方々に、それぞれ御執筆いただきました。

事例紹介では、推薦入学及び特別選抜を実施している広島大学、推薦入学を実施している都留文科大学にそれぞれの事例を紹介していただきました。

研究ノートでは、前号に引き続き、「解答分析(数学I)、(英語B)」を御紹介願いました。また、当センターの清水教授から「共通1次試験の成績から見た国立大学と公立大学の各学部による入学者選抜の特性」、鈴木助手から「共通1次試験連続受験者の5教科の学力の伸びについて」、岩田助手から「国公立大学2次試験出願者の地理的選択の範囲に関する分析」をそれぞれ公表いたしました。

本号の発刊に当たり、御多忙の中を寄稿いただきました、高崎、小熊、坂井、福田の諸先生に厚くお礼申し上げます。